

【I】 次の史料を読んで、下記の問い（問1～問7）に答えなさい。

予が志、二国の民をして交易を行はしめんと欲す。是を以て日本の利益となし、亦<sup>また</sup>兼ねて合衆国の利益と為さんことを欲してなり。(a) 貴国従来の制度、支那人及び和蘭人を除くの外は、外邦と交易することを禁ずるは、固<sup>もと</sup>より予が知る所なり。然れども、世界中時勢の変換に随ひ、改革の新政行はるゝの時に当ては、其時に随ひて新律を定むるを智と称すべし。(中略)。予更に水師提督に命じて、一件の事を殿下に告明せしむ。(b) 合衆国の船<sup>ふね</sup>、毎歳<sup>かり</sup>角里伏爾尼亜<sup>ホルニア</sup>より支那に航するもの甚だ多し。

(c) 亦<sup>また</sup>鯨鯨の為、合衆国人、日本海岸に近づくもの少からず。而して若し颶風あるときは、貴国の近海にて往々破船に逢ふことあり。若し是等の難に逢ふに<sup>あた</sup>つては、貴国に於て、其の難民を撫恤<sup>ぶじゆつ</sup>し、其の財物を保護し、以て本国より一船を送り、難民を救ひ取るを待たんこと、是れ予が切に請ふ所なり。(中略) 予また水師提督ペルリに命じて、次件を殿下に告げしむ。蓋<sup>はたし</sup>日本国に石炭甚だ多く、又食料多きことは、予が曾<sup>かつ</sup>て聞知れる所なり。我が国用ふる所の蒸気船は、其大洋を航するに当て、石炭を費やすこと甚多し。而して其石炭を墨利加より搬運せんとすれば、其不便知るべし。是を以て予願はくは、我が国の蒸気船及び其他の諸船、石炭食料及び水を得んが為に、日本に入ることを許されんことを請ふ。(後略)

一八五二年十一月十三日

〔『天日本古文書 幕末外国関係文書』〕

問1 この史料は、江戸幕府の将軍（本文中の「殿下」）に宛てた、アメリカ第13代大統領（史料中の「予」という一人称）の国書です。この国書の具体的な差出人と宛名の組み合わせとして正しいものを、次の選択肢ア～エの中から選びなさい。

ア フィルモア → 徳川慶喜

イ フィルモア → 徳川家慶

ウ ジョンソン → 徳川慶喜

エ ジョンソン → 徳川家慶

問2 江戸幕府の将軍は、この国書を史料のように幕府の役人が和訳文にしたものを読みました。和訳文を作成する過程は、下線(a)のとおり江戸幕府の外交体制に対応していました。その作成過程の説明として誤っているものを、次の選択肢ア～ウの中から選びなさい。

ア 国書は、英語の正文に加え、蘭語（オランダ語）と漢語（漢文）による翻訳が付いており、アメリカ側は三種類の言語による文書を用意した。

イ 幕府の役人は、英語、蘭語、漢語の三種類を、それぞれ和訳した。

ウ アメリカ側が用意した漢文の文書は、かなり簡略化されており、漢文から幕府役人が作成した和訳文は細かな含意を正確に伝えられないものであった。

問3 下線(a)のような江戸幕府の外交体制は、どのように呼ばれましたか。また、2つの国（史料中の「支那人」「和蘭人」）との外交・交易の窓口であった都市名と、それぞれ漢字2文字で答えなさい。

問4 下線(b)にあるカリフォルニアに関する説明として誤っているものを、次の選択肢ア～エの中から選びなさい。

ア カリフォルニアでの金鉱発見を契機に太平洋側への移住者が増えた。

イ アメリカの西部への領土拡大のなかで、カリフォルニアはフランスから購入された。

ウ アメリカの西部への領土拡大は、先住民を排除する過程でもあった。

エ カリフォルニアなどアメリカの太平洋岸への移住者には、太平洋での捕鯨やアジアとの通商を求めるものがいた。

問5 下線(c)のようにアメリカの船は、日本列島の太平洋沖合にて捕鯨(史料中の「鯨猟」)をおこなっていました。アメリカの太平洋での捕鯨に関する説明として最も適切なものを、次の選択肢ア～ウの中から選びなさい。

ア 日本の太平洋沿岸地域へ捕鯨船が多数出現するようになったのは、1700年頃からである。

イ 捕鯨の目的は、産業革命により、工場の長時間運転に必要な照明用燃料としての鯨油の需要があったからである。

ウ 1860年代以降、アメリカで油田開発が本格化しても、鯨の乱獲は続いた。

問6 この国書の日付は、西暦1852年11月13日です。この前後に起きた出来事について述べたア～エについて、古いものから年代順に並べなさい。

ア 中国でアヘン戦争が起きた。

- イ ロシア使節プチャーチンが長崎に来航した。
- ウ 江戸幕府は、薪水給与令を発した。
- エ アメリカの東インド艦隊司令長官ペリーが浦賀に来航した。

問7 アメリカ第13代大統領は、この国書を通じて、江戸幕府の将軍に対して何を要求しているでしょうか。その内容を史料から読み解き説明しなさい。

【Ⅱ】 次の表は、1865年から1910年までの上海における石炭輸入量の推移を示したものです。下記の問い（問1～問4）に答えなさい。

年次	イギリス	アメリカ	オーストラリア	日本	中国	ほかとも計
1865	51,325	11,217	28,689	—	—	91,231
1866	60,705	10,879	51,861	9,373	6,190	139,008
1870	17,210	5,705	27,730	23,009	5,759	80,013
1875	10,552	3,450	34,981	79,127	15,683	143,793
1880	7,406		16,651	148,013	10,944	183,314
1885	6,631	717	29,532	164,443	2,132	257,833
1890	2,793	256	11,680	222,255	10,474	247,458
1895	4,170	500	26,634	340,511	39,324	413,532
1900				450,790	53,781	594,181
1905	49,359	—	14,867	752,070	94,167	915,499
1910	22,815	—	2,650	784,281	294,670	1,126,189

単位＝トン。空欄は不明。小風秀雄「19世紀における交通革命の進展と日本炭の役割」（『高島炭坑調査報告書』長崎市、2014年）による。

問1 1858年、日本は日米修好通商条約を結び、新たに4つの港を開港しました。その港について誤っているものを、次の選択肢ア～オの中から選びなさい。

- ア 長崎      イ 新潟      ウ 兵庫      エ 神奈川      オ 函館

問2 この表から読み取れること誤っているものを、次の選択肢ア～エの中から選びなさい。

- ア 上海が日本炭の輸入を本格的に開始したのは、1866年である。
- イ 1865年の上海における輸入炭の過半は、イギリス炭である。
- ウ 日本炭は、1870年にはイギリス炭を凌駕し、上海における輸入炭のトップになった。
- エ 1880年には、上海における輸入炭の8割を日本炭が占め、以後、上海石炭市場における圧倒的優位を確立した。

問3 日本の輸出炭の主要生産地は、高島炭坑と三池炭鉱でした。2つの炭坑に関する説明文として誤っているものを、次の選択肢ア～エの中から選びなさい。

- ア 2つの炭坑は、世界遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産に含まれている。
- イ 高島炭坑は三井財閥に、三池炭鉱は三菱財閥に権益があった。
- ウ 高島炭坑は、佐賀藩とグラバー商会によって開坑された。
- エ 1959年、三池炭鉱では、炭坑労働者の解雇に対して「三池争議」と呼ばれる大規模な労働運動がおきた。

問4 19世紀後半、スクリー開発や機関性能の向上により飛躍的にその性能を高めた乗り物にとって、石炭は重要な動力源でした。その乗り物の名称を漢字3文字で答えなさい。また、その乗り物と日本の開国・開港は、当時の世界交通網を大きく変えました。その変化について、交通ルート（航路）や世界市場の動向と日本の石炭が果たした役割をふまえて述べなさい。

【Ⅲ】 次の資料1に関して述べた下記の問い（問1～問6）に答えなさい。

資料1（「蒙古襲来絵詞（模本）」、東京国立博物館所蔵）



出典：ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)

問1 資料1は、肥後国の御家人竹崎<sup>すえなが</sup>季長の依頼によって作成されたもので、蒙古襲来の合戦に参加した自身の活躍について描かせた絵巻物の一部です。

肥後国は、現在の都道府県のどこか、次の選択肢ア～エの中から選びなさい。

ア 佐賀県      イ 長崎県      ウ 熊本県      エ 宮崎県

問2 鎌倉時代の御家人の説明として誤っているものを、次の選択肢ア～エの中から選びなさい。

- ア 将軍と主従関係を結んだ武士で、御恩と奉公の関係を基盤とした。
- イ 御家人の奉公の中心は、戦時・平時の軍事奉仕である。
- ウ 武士の一族の宗家代表は惣領と呼ばれ、それ以外の庶子は惣領を通じて掌握され、御家人ではなかった。
- エ 御恩とは、将軍が御家人の所有する土地の支配権を確認したり、功績を賞し

て新たに土地をあたえたりすることである。

問3 蒙古とはモンゴルのことで、当時、モンゴル帝国はユーラシア大陸の大部分を支配した広大な国であった。モンゴル帝国に関する説明として誤っているものを、次の選択肢ア～オの中から選びなさい。

ア 13世紀のはじめ、モンゴル高原にチンギス=ハンが現れ、モンゴル帝国を建国した。

イ モンゴル帝国は、機動性を中心とした騎馬を駆使して急速に勢力を拡大した。

ウ チンギス=ハンは、都を大都（北京）に移し、中国王朝としての性格を強め、国号を元と定めた。

エ 西アジアのアッパース朝などを滅ぼし、東ヨーロッパまでも攻め入った。

オ 東南アジアにも侵攻し、ミャンマーのパガン朝を服属させた。

問4 モンゴルによる日本への侵攻は2度ありました。この蒙古襲来に関する出来事について述べたア～エについて、古いものから年代順に並べなさい。

ア 幕府は、九州の武士を動員して異国警固番役をはじめた。

イ 幕府は、博多湾岸に石築地（防塁）を築いた。

ウ 元のフビライは、朝鮮半島の高麗を屈服させ、日本に使者を送り朝貢を求める国書を渡した。

エ 南宋を滅ぼした元は、14万あまりの大軍を日本に差し向けたが、大暴風雨によって、失敗に終わった。

問5 資料1から読み取った内容について誤っているものを、次の選択肢ア～エの中から選びなさい。

ア 画面中央上には、指揮官の一人で肥後国の「守護人」（守護代）である安達盛宗が描かれ、鎧をはずしていることから戦後の状況を示している。

イ 画面左には、鎧を着たまの御家人竹崎季長が描かれ、指揮官の安達盛宗に何か伝えようとしている。

ウ 画面中央下には、筆と硯が置かれ、左手に紙を持った役人（「執筆」）が描かれている。

エ 指揮官である安達盛宗は、自分があげた戦功（討ち取った首級）を、御家人の竹崎季長に自慢している。

問6 蒙古襲来は、大暴風雨という自然現象がモンゴル軍船を襲い、モンゴル軍が退去するきっかけになりました。鎌倉幕府は、蒙古襲来に際して全国の寺社に対して合戦に勝利するための祈祷命令を出しており、寺社はこの大暴風雨は神仏の力だと主張しました。また、朝廷も同様の認識をもっており、こののち日本のなかでこの大暴風雨は「神風」とする言説、そして日本を「神国」とする思想が展開しました。この言説や思想は、日本のその後の時代にも影響を及ぼしています。影響を受けていると思う日本の歴史上の出来事に関して述べてください。

【IV】 次の資料2に関して述べた下記の問い（問1～問4）に答えなさい。

資料2（「役所執務之図」『徳川幕府縣治要略』）



出典：国立国会図書館デジタルコレクション

問1 資料2は、江戸時代の幕府の直轄領（幕領）における代官所のようなものを描いたものです。幕領における支配について述べたア～エのうち、正しいものを選びなさい。

- ア 全国の土地は、幕府や大名・旗本・寺社などの領地に大別され、このうち幕領は約 700 万石であった。
- イ 幕領は全国各地にあり、支配を担当する郡奉行が必ずおかれた。
- ウ 幕領を支配する代官は、すべて世襲で同じ家の当主が代々つとめた。
- エ 代官所では、代官とその役人が数名詰めて支配をおこなった。

問2 江戸時代は身分社会でした。江戸時代の身分社会について述べたア～エについて正しいものを2つ選びなさい。

- ア 江戸時代の身分は「士農工商」である。「士」は武士、「農」は農民、「工商」は、大工や鍛冶などの手工業者である職人、商業を営む町人で、この四区分だけで近世社会が構成されている。
- イ 武士は、政治や軍事の面を主導する支配身分である。
- ウ 百姓とは、農民のことである。
- エ 陰陽師や修験者ら宗教者、役者や能楽師ら芸能者など多様な人たちが、江戸時代の身分社会のなかで生活していた。

問3 資料2に描かれている内容から、江戸時代の武士は何をしていたのか考察しました。その内容について述べたア～エについて誤っているものを選びなさい。

- ア 代官所の部屋の中には文書を収納する棚や箆笥があり、武士は必要な文書は外に出して、広げて確認をしている。
- イ 代官所の建物内で机を並べ、刀は壁の刀掛けか、脇に床置きして、帳面に記録するなど、デスクワークをしている。
- ウ 江戸時代の武士は刀を差して、威張り散らしている。
- エ 一段下がったところで、百姓たちが文書を差し出そうとしたり、何か伝えようとしており、武士はその内容を聞いたり、書き留めたりしている。

問4 江戸時代の武士は、鎌倉時代や戦国時代の武士たちとは、その役割が変化してきました。武士の役割の変化は、江戸時代が戦争のない平和な時代であったことと関係していると言えます。武士の役割の変化について、各時代背景をふまえながら変化の内容を説明しなさい。

